



教材研究としての草野心平論(二〇一五年度卒業論文 要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2016-11-22 キーワード: 作成者: 木下, 由梨 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007512

教材研究としての草野心平論

国語科教育学研究室Ⅰ 二四五一 木下 由梨

本研究では草野心平の「蛙」を題材とした詩編のテーマを明らかにし、「蛙」を題材とした詩編を指導する際の有効な学習を探ることを目的とした。

「蛙」を題材とした詩編には、生きること执着する意志の強さをもつ「蛙」や、生きる喜びを感じる「蛙」が描かれている。それらによって、生きている瞬間を大切にするという生の尊さが表現されていると考えた。

三八の詩集を概観し、「蛙」を題材とした詩編の傾向を確認した。詩集『定本 蛙』では、過去に詩集で掲載した詩編を一定の傾向で改作している。第一に、詩語を削除することで、詩編のテーマを明確にしていた。第二に、題名を修正し、詩編に描かれる場面の状況を分かりやすく示していた。第三に、空白を増やすことで、「蛙」の行動を想起させやすくする効果があった。『定本 蛙』のこれらの改作によって、詩編のテーマが明確になったといえる。

草野心平は「蛙」に平凡な幸せを大切に生きて生きる理想的な人物像を託した。それによって、本心にある戦争に反対する意志を示していたのではないか。

「河童と蛙」や「おれも眠らう」などの詩編の学習では、複数の詩編を合わせるといふ活動を行うことで、「蛙」に託されたイメージをより明確に捉えることが可能になると考える。